

## 12. 岩盤が破壊される・・・

地震の発生は岩盤が破壊されることによる発生し、そのエネルギーはパワフルでその影響は大きいです。それは地球が、生きている星で活動している証であり、つまり活動のエネルギーがあるから起きるといふことになります。このような力をなんとか吸収してしまうか、別な形で活用できると破壊、崩壊ということも防げるということになります。そして、火山噴火や地震、気象の変化などをうまく転用することが出来れば、災害ではなくありがたい「災益」になるということなのです。

いまでも、温泉を利用したり地熱の発電に活用はしていますが、それは本当に微小なところをこっそり持ってきている程度であります。大規模に実現するには、まずはエネルギー発生メカニズムを解明して、消散させるか、そのエネルギーを溜め込むことが出来る魔法の手箱が必要となります。このような夢もある反面、災害へ進展しないためにはかかわらない、<sup>かわ</sup>躲すという手もあります。力では勝てないときには、相手の勢いをそぐ、相手を見做すなどになりますが、防災の面ではソフト的な対策といえます。その代表が避難するということですが、この避難は大変に難しく、実際に大きな災害で犠牲者がなくなることはないのは、この避難が100%でないからです。その要因は、多くあると思いますが、災害の突発性、情報の伝達や正確性、避難時間、避難先、個人的な心理性、二次被害や余震などです。

犠牲者を可能な限り少なくするためには、まずは自助や共助が大事なことです。もっと基本的なことは、自然災害への関心だと思います。特に、これまで大きな被害が無かったとか、災害があったと聞いていないという人が、災害は身近に起きるものだということを知って、敏感になり、情報や前ぶれを気にして欲しいと思います。おそらく、先人はこのような自然の息づかいや周りの地形といったものが、自分たちの安全や安心につながることを知っていたために、相当な自然災害とか獣害への感受性を有していたような気がします。その後、人は科学技術とか利便性や効率性を追求することで、この自然への感受性を失念してしまったのかもしれない。

例えば、土地利用についても、特に土地の形成史を理解し、地盤のリスクを正しく把握していれば、浸水や氾濫、地盤沈下、地震時の揺れ、津波といったものに対しての危険度を知って、ある程度の対応をすることも出来ます。利便性や用地不足という一方的な都合だけでなく総合的な視点で検討すれば、防災にも耐えられるものとなります。防災は、これまでの資源を活用してコストを掛けずに、ソフト的なものへシフトしていくことが必要だし、災害へのコンセンサスを常識化することが望ましいと考えます。